今ちまたの儒先生。図書編を珍羞あつ〳〵。惺窩翁そしと侍ること。戴田需まこも。
惜さぬ方が一癖よいて。竟ふ傍ざわ〳〵ちん。金澤文庫の藏書印。赤いも黒いもいさ形の生出ざる。
混沌ふ分れ古へも。書ふ走〳〵と時ふ化ず。斯惜しも安ふ〳〵れ。唐山の虞参政が。書不借人〳〵ふ〳〵榜。
和漢暗合ず足利本学校寛外出すことを不許と毎歳ふ畫ふ〳〵ち。此本何ふ〳〵まりれも。ぢ流後ふ伯一
アリ。此主小野篁ふ。何とて古ちのくざわ〳〵ん。さふ〳〵ふる儲も其後。二百年来昇平の恩澤ふ浴し。
湯ず盤乃銘〳〵に青表紙の端も漬ふ四角ふ〳〵字と呪〳〵ふ〳〵もちてよわ。日に新ず月ふ盛はして。
活字板の迂遠ふ代廢し。飜刻新鐫牛ふ千。四書の類板未書ざ加ふも。近来棟ふ充ふて堪ず。
朝鮮本ず肥大なれ。紅毛本の細密ふ。宋板元書の精工完備。家記圖籍の雛校精審。奇
書ず〳〵ふ〳〵。異本のさはく。需ふ得ざ〳〵ふ〳〵。ぢ中にも古文孝經ふ知不足齋の肝と潰
さ。七經孟子に芥子坊ず目を瘖せし。我が
日本ず勲功ふ〳〵。こんふ珍書ふ唐ふもあろ。文華まち〳〵開ふ後。天神七代自身ず考。
目に諸の書を見ふ心に頃日乃流行と想ふ。天明年中ず洒落ふ等〳〵。きちんのちん
ぎまち。随筆ず思意按ぬど誤説乃幸合傅會やまちに拉ふ引書目ふ〳〵ぞ〳〵
考證精密。お考ず交易肇ずてもち。好事家諸國ふ殖ふ。皆是書林の潤澤ふ〳〵。
仍ふ絵板を精製し。價ず廉ふ獻ふ〳〵。明題二八拾六文。十九文選三墳五典。價安ふ〳〵
求易し。讀易ふ〳〵ず鮮易ふ。早學問の當世樣。以ふ波さ人賞まど。諸子百家ず畫ふ〳〵。紀紀
萬巣ず意を明ふ〳〵ず酒飲む幇間も。一椀可吃ときいまぐち。酌取ふ婢女も。ふ〳〵ふ〳〵ふ何
よけん〳〵。猪〳〵のふこう〳〵ふ学問の蟹昌。物ず本屋が幸福ふ。此　大御代ふ〳〵ふ〳〵。
鎗持鎗をはふ〳〵ず。書物屋ふ〳〵物と続まど。腹ふ万巣ず多ず。と暗記ど。胸ふ一字乃
文事ふ〳〵ふ〳〵。唐本和本ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵。或ふ和漢ず諸法帖。或ふ書畫軸。古文書類
片猪半巣ふ〳〵。希世の物と竅ふ〳〵。最愛玩ふ〳〵ふ〳〵。餘ふ〳〵ず漏ふ〳〵。責買して。
世界にあ〳〵ゆふ〳〵ふ〳〵。皆識者ふ〳〵ふ〳〵。全〳〵書林ず陰德ふ〳〵。其陰德ふ陽報
あり〳〵。新ふ冇〳〵書物屋ふ〳〵。何品ふ拘らど。多ずをいまで御用向ふ〳〵。
藤屋ふ許へ。ふ顧を賜ふ〳〵。ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵。本丁葺。江戸ふ居ふ〳〵。
普く諸國へ告ふ〳〵ふ。

應需　式亭三馬欽曰